

会議結果のお知らせ

会 議 の 名 称	令和 8 (2026) 年度第 1 回栃木県ケアラー支援推進協議会
会議の公開について	☒ 公開 ・ 非公開
(概 要) 1 日 時 令和 8 (2026) 年 6 月 26 日 (金) 10 時 00 分から 11 時 30 分まで 2 場 所 県公館 大会議室 3 出席者 委員 14 名 4 議 事 (1) 会長及び副会長の選任について 次回協議会において実施することとした。 (2) 栃木県ケアラー支援推進計画における評価指標の実績について 事務局から、「栃木県ケアラー支援推進計画における評価指標の実績」について説明し、質疑応答を行った。 (3) 令和 8 (2026) 年度の重点的取組事業等について 事務局から、「令和 8 (2026) 年度の重点的取組事業等」について説明し、質疑応答を行った。 (4) 次期「栃木県ケアラー支援推進計画」の骨子案について 事務局から、「次期栃木県ケアラー支援推進計画の骨子案」について説明し、質疑応答を行った。 (5) 令和 8 (2026) 年度ケアラー実態調査の設計案について 事務局から、「令和 8 (2026) 年度ケアラー実態調査の設計案」について説明した後、2 つのグループに分かれ、調査票の設問内容等について意見交換を行った。 【会議全体を通しての委員からの主な意見】 ・ ケアラーという言葉の認知度の向上に向けては、啓発媒体を作成・配布するだけでなく、対象者に応じた届け方や周知方法を工夫する必要がある。 ・ 次期計画の策定に当たっては、関連計画や他の会議体との関係性を分かりやすく整理する必要がある。 ・ ピアサポートについては、支援する側・支援される側という関係ではなく、経験や思いを分かち合う関係性を踏まえた整理が必要である。 ・ 令和 8 年度ケアラー実態調査については、調査対象や設問内容、調査名称等について、調査の目的がより分かりやすくなるよう整理する必要がある。 ・ ダブルケアの実態把握に当たっては、地域包括支援センターなど、複合的な課題を把握し得る機関への調査も検討する必要がある。 ・ 8050 問題、ひきこもり、ダブルケアなど、複雑・複合的な課題を抱える世帯については、地域の実情を把握する視点が重要である。 ・ ヤングケアラー支援については、既存制度を有効に活用し、制度の隙間に入ってしまうことにも支援が届くよう、分野横断的な連携体制を整える必要がある。	
問 合 わ せ 先	栃木県保健福祉部地域福祉課地域共生社会担当 (栃木県ケアラー支援推進協議会事務局) 電 話 0 2 8 - 6 2 3 - 3 0 4 7 F A X 0 2 8 - 6 2 3 - 3 1 3 1